Culib News（クリブニュース）
No.53　2007年7月10日　中京大学図書館発行

ことばの散歩－16－

Do と Be、Have と Be

図書館長　安村　仁志

新渡戸稲造は『随想録』の中のある文章で、「人格形成」と「行為業績」という語を用い、前者に“ビーイング”、後者に“ドゥイング”とルビをふり、両者を対比したうえ、doing より being が大切であるといった内容のことを述べています。新渡戸に孫のように可愛がられた、「生きがい論」で有名な神谷美恵子はそうした考え方・生き方に共鳴しています。新渡戸・神谷の著作・生涯を読み・見てみると、二人はともに being を大切に生きた人たちだったように映ります。それに対して、現今の世界は doing 一辺倒であるように見え、それゆえに息苦しさを感じるとき、do/doing と be/being について少し考えてみたいと思います。

do には非常に多くの意味がありますが、一般的には「（仕事などを）おこなう、（義務、約束などを）果たす」（= perform）、「実行する」（= carry out）、「（仕事などを）（首尾よく）成し遂げる、（目的などを）達成する」（= achieve）、「完成させる、仕上げる」（= complete）などの意になるでしょうか。さて、「何かを行う」ということについては、《誰のため》《何のため》という目的意識がかかわってきます。《誰のため》となれば《自分のため》か《誰か他の人のため》となりましょう。《他の人のため》からは、「奉仕」と「顕示」という側面が浮かび上がってきます。ごく自然に、特別な意識をもたずに《他人のために》何かをしている姿は「奉仕」と映るでしょうし、《他の人を意識して何かをする》ことでは「見せる」或いは「見てもらう」という思いが働き、「評価」という要素が介入してくることでしょう。今日の社会は「評価」と「顕示」が裏表の関係で私たちの行動・行為に迫ってきています。私たちは、さまざまな場面で「評価される」立場に立たされ、何らかの形で「見せ」なければならなくなっています。それにより、「行い」は《他の人》を意識するという動機に支配されるものになっているのではないでしょうか。そして、その「評価」は《目に見える》形として迫ってきます。端的な形態が「数（字）」です。数字を伴った「実績」「業績」を示すことこそが求められ、プロセスでの「目に見えない」ものはあまり顧みられない傾向にあります。必然的に、「行い」doing は「顕示」的、形式的、或いは自己本位的にもなります。だからこそ人々は圧迫を感じ、倦み疲れています。とんでもない事故や出来事が起きる背景には、こうしたことが潜在的に作用しているのではないでしょうか。

新渡戸が doing に「行為業績」という語を当てたのは的を射たものだと思います。だからこそ、新渡戸は being を持ち出し、その優位性を主張するのです。Being はものごとを「為す（do）」人間の内実を問題にすることでしょうから、新渡戸はこれに「人格」という語を与えたのでした。本来は「何かを

為す（do)」前に、それを為す者が「どうある（be)」かが問われなければならないのでしょう。新渡戸は「人の行為は、主として其の品性を表彰するものなるが故に之れを尊しとす…、“to be”と云ふは、“to do”と云ふよりも遥に重んずべきものぞ」と上述の文で書き表しています。教育の目的も、知識を外に向かって示すという do よりも、人間としてどうあるべきかという be、人格或いは品性と結びつくべきだと言っています。アメリカ留学を終えて帰国し、母校札幌農学校の教授をする傍ら、新渡戸は学校で学べない境遇の青年子女を集めて「遠友夜学校」を開設しましたが､教育の主眼は「学問より実行」でした。矛盾するようにみえますが、単なる知識ではなく、それが真に身について「行い」に現れることの大切さを意識していたのです。《do より be》―今日深く考えさせられるテーマです。

もうひとつ、《have と be》について考えてみましょう。社会心理学者のエーリッヒ・フロム（1900－1980）は晩年の著作“Haben oder Sein”（To Have or To Be 邦訳　佐野哲郎『生きるということ』, 1976, 紀伊國屋書店）で、人間存在にかかわる二つの様式―《持つ様式》と《在る様式》―を示し、具体的な人間行動をあげてそれぞれの様式の特徴を明らかにしていきます。興味深い分析です。物に対する「執着」､「所有欲」は人間にとって根深いもので、無意識でしょうが小さな子どものうちにも現れています。それがあるからこそ人類は発展してきたという見方もあるでしょうが、他方それがあるからこそ争い・競争・破壊が生まれ、負の遺産も生まれてきました。フロムは、《持つ様式》には「貪欲」「力」「攻撃」といった要素が生まれると言います。「所有欲」の現れでしょうが、その場合は《持つ》こと自体が最大の目的で、手に入れたものを有効に用いるということは二の次になってしまいます。《持っている》ということ自体が意味を持ち､「顕示」につながっていきます。私たちの身の回りには、ただ《持っているだけ》のものがどれほどあり、それらを得るためにどれほどのエネルギーと精神を使っていることでしょう。それに対し、《在る様式》は、フロムによれば､「愛」に根ざし､「分け合う喜び」「生産的行動」と結びつきます。本当に自分のものになっているなら、もはや形は二の次になるのでしょう。私の部屋にはたくさんの本がありますが、本当に《在る》ということには程遠い状態です。必要なものと思って手に入れたものですが､《持っている》に過ぎないものが多く、それを思うと悲しくなります。「私にはこれこれの本が《在る》」と言えるには、しっかりと読み、それについて思いをめぐらし、自分なりの考えがまとまっていることなのでしょう。そうなっていれば、その本はなくとも人に話して聞かせたり、勧めたりできるでしょうし、求められれば惜しみなく貸すこともできるでしょう。《在る》は「分け合う」ことにつながります。この文は学生の皆さんも読んでくださると思いますから、フロムがあげている「学習すること」に関する二つの様式を紹介します。講義を受けるとき、《持つ様式》の人は、大げさにいうと、できるかぎりすべての言葉をノートに書き込もうとしますが、そのことで精いっぱいで、聞いた内容は必ずしも自分のものになっておらず、誰か他の人の所説の集積の所有者となっただけの状態だというのです。それに対し､《在る様式》の人は予備知識と照らし合わせながら聞いていくことで、言葉や観念に対し受動的ではなく、反応することを通し、講義を聞く前とは別の人間になっていると言うのです。「知る」ということは「変わる」ことになるのでしょう。たしかに､「私は何々を《持っている》」というより､「私には何々が《在る》」ということの方が豊かな感じがします。あっても意味なくあるのでは意味がありません。本当の意味で自分のものになって《在る》という状態にしたいものです。do と be､have と be ――今日こそ《be》に心を配りたいものです。読んで下さった皆さま、“do －ぞ”、じっくりとそれぞれを“比 be て”考えてみてください。

児童文学の旅(4)

―L. M. モンゴメリー、カナダ：プリンス・エドワード島―

原　　昌

『赤毛のアン』の里、プリンス・エドワード島を訪れたのは、1984年９月８日であった。

この年の３月から、私はアメリカのミネソタ州立大学にオーナラリー・フェローとして滞在していた。秋には帰国せねばならないので、その前にカナダのオズボーン・コレクションとプリンス・エドワード島を訪れたいと思っていた。

ミネソタ大学はカナダの国境近いミネアポリスにあり、休暇を利用して夏の終わりに旅立った。まず、私はバッファローに着き、バスで国境を越え、トロントに入った。当時トロント大学構内にあったオズボーン・コレクションに行き、数日間滞在、古い児童文学資料を見てから、エドワード島のシャーロットタウンに飛んだ。そこから定期のマイクロ・バスに乗って、「ホテルがないよ」といわれていた、海岸の村キャベンディシュへと急いだ。この海岸沿いの村が、〈アンの里〉である。

キャベンディシュへはまっすぐな一本道が、島を横切っていた。その道の色は、鮮やかな赤であった。窓からは、なだらかな丘、はるかに点在するカラフルな家が見え、白樺林が通り過ぎる。牧歌的で、童話にみる風景があった。

モンゴメリーの生家

観光シーズンの終わりだったせいか、バスの乗客は、私ひとりだった。気楽に運転手さんに聞いてみると、「土が赤いのは鉄を含んでいるからだ」という。物語のなかで、アンがスペンサーおばさんに「赤い道」のことをたずねる回想シーンがある。

「この道って、どうして赤いのって、おばさんにきいてみたら、そんなことは知らないね。お願いだから、そう質問ばかりしないで、と言われちゃった。もう千くらい質問しただろうって。…でも質問しなかったら、いつまでたっても、知らないことは知らないままでしょ？」(掛川恭子訳)

おしゃべりで、好奇心が強く、想像豊かなアンである。

やがて一時間ばかりしてキャベンディシュに着き、幸いにも海岸沿いのロッジに泊まった。

村には観光客がほとんどいなくて、バスなどの交通機関もなかった。村のなかにあるモンゴメリーの勤めた郵便局や、通った教会、アンの名付けた実在の場所「恋人の小径」、「幽霊の森」などを訪れた。

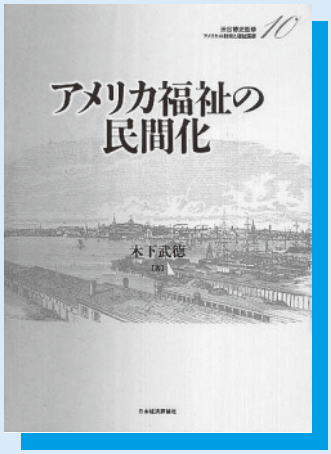
ロッジの裏には青い海が広がり、鋭く切り立った断崖があって、その色も赤く、海の波が迫っていた。

翌朝、作者の生誕地ニュー・ロンドンに行きたいと、宿の主人に言ったら、「シーズン・オフだから、バスも、タクシーもない」という返事だった。だが、親切にも宿の主人は自家用車で案内してくれた。旅のよろこびの一つであった。

先住民たちは、かつてこの島のことを「波間に浮かぶ宝石」と呼んだという。プリンス・エドワード島は、地の赤、白樺林の白、丘と草原の緑、空の紺碧さと海の青さ―それらの織りなす、カラフルな「宝石」の島であった。

(中京大学名誉教授)

新着図書のご案内

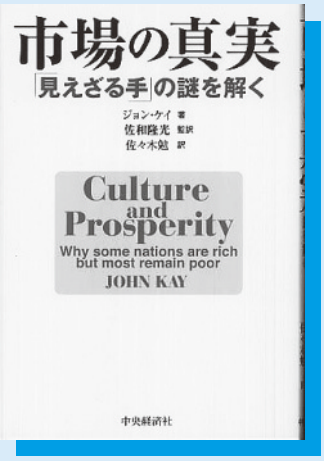


『アメリカ福祉の民間化』

（木下武徳著 / 東京：日本経済評論社，2007.3）

請求記号：369.0253/Ki 46，所蔵：NL

アメリカ福祉の民間化が飛躍的に発展する契機となった公的扶助改革をとりあげ、政府と NPO との委託契約による福祉サービス提供の実態と問題点を実証的に分析する。



『市場の真実：「見えざる手」の謎を解く』

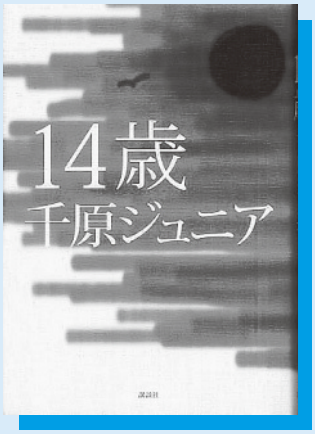
（ジョン・ケイ著：佐々木勉訳 / 東京：中央経済社，2007.3）

請求記号：331/Ka 98，所蔵：LSC

支配的な経済モデルというものが存在するのだろうか。

本書の主張は、ユニバーサルな経済モデルなどないということである。

繁栄している国はどこも市場経済に基づいているが、その市場は社会、政治そして経済のコンテクストにしっかりと根付くことによって機能している。



『14歳』

（千原ジュニア著 / 東京：講談社，2007.1）

請求記号：913.6/C 43，所蔵：TL・LSC

人生最悪の14歳。
それでも彼の答えに“死”はナイ。
幻の自伝的小説。

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
080/Ko 9/1865	**『老いるということ』**（黒井千次著　東京：講談社, 2006.11） これまでにない長い老後を生きる時代が到来した現代、人は老いとどのように向き合えばいいのか。	TL LLC
150/Ka 86	**『現代人の倫理学』**（加藤尚武著　東京：丸善, 2006.3） 心のかたち、人生論…など、我々現代人にとって興味関心の尽きない話題を取り上げ、現代人として有すべき「倫理観」の本質を浮き彫りにする。	TL LSC
145.5/Ki 72	**『だまされる視覚：錯視の楽しみ方』**（北岡明佳著　京都：化学同人, 2007.1） なぜ錯視は起こるのか？ そこに何らかの法則はあるのか？ 錯視図形を満載し、その驚異の世界を、錯視デザインの第一人者が案内する。	LSC
289.1/W 12	**『ある戦後精神の形成：1938-1965』**（和田春樹著　東京：岩波書店, 2006.10） 戦後日本平和主義の原点はどこにあるのか？ 戦後の革新思想、左翼運動が果たした役割は？ 歴史家は新たな朝鮮観・ロシア観をいかに築いてきたのか？	NL TL
319.1021/Ki 31	**『明治三十八年竹島編入小史』**（金柄烈著；韓誠訳　京都：インター出版・インター語学塾葛城：金寿堂出版（発売）, 2006.12） 日清・日露戦争、韓国併合に至る過程で独島（竹島）が意図的に日本領土に編入された事を資料に基づき詳細に解説した本です。	LSC TL
402.978/A 32	**『北極圏のサイエンス：オーロラ、地球温暖化の謎にせまる』** （祖父俊一著　東京：誠文堂新光社, 2006.12） 2000年よりアラスカ大学国際北極圏研究センター所長。オーロラをはじめ、地球電磁気学や北極圏研究における世界的権威（本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたもの）	TL
538.9/A 53	**『日本の宇宙戦略』**（青木節子著　東京：慶應義塾大学出版会, 2006.11） 学生と宇宙開発利用に関心のある社会人を対象として、国際宇宙法、主要な宇宙活動国の国内法の内容も盛り込んだ決定版。	TL LSC
674/Ka 22	**『広告内視鏡』** （梶祐輔著　東京：日経広告研究所東京；日本経済新聞社（発売）, 2006.11） 大阪府生まれ。早稲田大学文学部仏文科卒業。株式会社電通を経て、1960年日本デザインセンター創立に参加。	TL LSC
788.1/U 14	**『女はなぜ土俵にあがれないのか』**（内館牧子著　東京：幻冬舎, 2006.11） 相撲研究のために大学院にまで飛び込んだ人気脚本家が、「聖域としての土俵」誕生の歴史に迫り、「土俵の女人禁制」論争に終止符を打つ。	TL
801.01/N 45	**『言葉と心：全体論からの挑戦』**（中山康雄著　東京：勁草書房, 2007.1） 語られたことはどうして理解できるのか。言語哲学と心の哲学の二つの領域に跨がる「意味と信念」を考える。	TL LSC
913.6/I 77	**『キミのとなりで：いじめと向き合う子供達』** （石丸誠一著　京都：かもがわ出版, 2006.12）	TL
923.7/Ky 1	**『何たって高三！：僕らの中国受験戦争』** （許旭文著：千葉明訳　東京：日本僑報社, 2006.3）	TL LSC

※所蔵の【NL】は名古屋図書館、【LSC】はライブラリー・サービス・センター
【LLC】は法学文献センター、【TL】は豊田図書館です。

旅のきっかけ

文学部　言語表現学科3年　髙木　　慧

丁寧に整理され並べられた蔵書の列の後ろで、その本は無造作に、ひっそりと転がっていた。まさかと思い、はやる気持ちを抑えつつゆっくり手を伸ばす。手前の本をかき分け、それを目の前に持ってくると、表紙の絵に目が釘付けになった。

灰色の夜を背景に、望遠鏡を覗く男が石柱か何かの上に座っている。くっきりとした線と色で描かれたどこか幻想的な絵。独特だけど、くどさがない穏やかなイラストだ。間違いなかった。その本はそれこそが自分の探してきた本だ。

「ナシスの塔の物語」こんなタイトルだったのか、と、懐かしさとともに言いようのない切なさがジワリとこみ上げてくる。その本は、少なくとも五年以上前からこの図書室にあるはずなのだが、異様なほどきれいであった。昔自分が読んだときから、誰も手をつけなかったのかと思わせるほどだ。表紙裏に張ってある利用カードにも、ひとりの名前も書いていなかった。多くの蔵書に埋もれて見つけられなかったのか、それとも人を引き寄せるだけの魅力がないのか、それはどうでもよかった。

自分の中に強く響いてきたことは、この本は自分が触ってから、誰にもページを開けられることなく、自分の手元に戻ってきたのかもしれないということだった。作者やタイトルが同じというだけではない。自分があのとき読んだ本と同じ紙、文字に触っている。

昔と今がつながっているようで、すっかり舞い上がった気分になった。本探しから、今の中学の図書室の実態の説明まで誠意を持って協力してくださった司書の先生も、本が見つかったことを自分のことのように喜んでくれた。同じように気分が沸き立っていた先生は、なんとその本をそのまま貸してくださったのだった。突然やってきた見ず知らずの自分にここまでしてくださるのはありがたい限りだったが、それには先生の特別な意識があったようだ。

その先生は、その月をもって退職されるとのことだった。

そのため、自分が訪れたその月には、それまでの教員生活で知り合った先生の生徒たちがほかにも多く尋ねてきていたらしい。そんな中で、先生の知り合いでもなんでもない初対面の自分が、偶然中学の図書室を訪れ先生と知り合ったわけだ。本を探す小さな旅がきっかけで、教師の職員生活の締めくくりの場に居合わせることになり、ささやかな、大きな喜びと懐かしさを味わうことが出来た。この時期でなければ、今回のことがこれだけ深く記憶に焼きついたりしなかったと思う。一冊の本を探し、様々な話を聞き、おまけに目的とする本と再会できたことで、初対面同士だったお互いにつながりができた。こういう出会いが出来ることはすばらしいことだと、先生は言い、図書館はそれが実現できる職場だと教えてくれた。

たった一冊の、思い出の図書を探す「旅」で中学を訪れたこと。図書館という場に、ほんの少し目を向けたことは、多くのことを知るための、一つのきっかけだった。仕事に誠心誠意向かい合うことの小さな充実さ。それを全うして職務を終えていった、一人の司書の先生の人生の小さな一部分。そんな司書の方の活動によって、今も生き生きと動き続ける母校の小さな図書室。そんなたくさんの小さなものに気づくきっかけこそが、つまり、あの一冊の本だったのだ。何がどんなきっかけになり、どんなことが起きるのか分からない。そんな人生の面白さを垣間見る旅だった。旅のきっかけの本、「ナシスの塔の物語」を読んだ感想が、中学の頃とは大きく違うものだったというのは、言うまでもない。

本学教員著作の寄贈図書

請求記号	タイトル	出版社	著者	所蔵館
440.9/A 33	古代中国にUFOは飛来していたか? —中国トンデモ UFO 本の世界—	明木茂夫	教　養　部　明木　茂夫	LSC
302.53/Mu 62	アメリカを狩りする青春	三修社	中京大学大学院 ビジネス・イノベーション研究科 村山　元英	LSC
361.42/Mu 62	日本人と〈縁〉思想	日本経済評論社	中京大学大学院 ビジネス・イノベーション研究科 村山　元英	LSC
338.3/Se 58	現代社会科学叢書 現代の金融政策	春秋社	経 済 学 部　千田　純一	LSC
331.86/C 86	国民所得の理論	トッパン	経 済 学 部　千田　純一	LSC
341/O 56	公共の役割は何か	岩波書店	総合政策部　奥野　信宏	NL
335.033/J 54	実践経営学会創設40周年記念 実践経営辞典	櫻門書房	経 営 学 部　中垣　　昇	LSC
336.1/N 37	中京大学大学院 ビジネス・イノベーションシリーズ 〔経営情報〕 経営科学と思想決定	税務経理協会	中京大学大学院 ビジネス・イノベーション研究科 中村　雅章	NL
675.2/Sh 77	中京大学大学院 ビジネス・イノベーションシリーズ 〔マーケティング〕 マーケティング調査と分析	税務経理協会	中京大学大学院 ビジネス・イノベーション研究科 塩田　静雄	NL
801.03/Ma 64	ことば／権力／差別 ー言語権からみた情報弱者の解放	三元社	教　養　部　ましこ・ひでのり	LSC
372.34/Ko 64	ドイツの中の《デンマーク人》 ーニュダールとデンマーク系 少数者教育ー	学文社	教　養　部　小峰総一郎	LSC NL
361.5/N 38	再帰的近代社会 リフレクシィブに変化する アイデンティティや感性、市場と公共性	ナカニシヤ出版	経 済 学 部　中西眞知子	NL
331.19/Sh 69	現在経済学のコア (The Coer of Modern Economics) 計量経済学	勁草書房	経 済 学 部　山田　光男	LSC
319.8/Su 33	日本国憲法と国連 日本小国論のすすめ	かもがわ出版	名 誉 教 授　杉江　栄一	LSC

＊敬称略

ご寄贈ありがとうございました。

図書館カレンダー

7

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
16	17	⑱	⑲	⑳	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

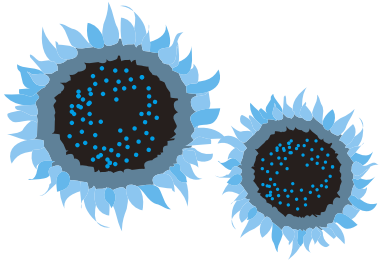
12

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

通常開館時間

	平　日	土曜日
名古屋図書館	9：00～19：00	9：00～12：30
豊田図書館	9：00～20：00	9：00～17：00
ライブラリーサービスセンター	9：00～22：00	9：00～17：00
法学文献センター	9：00～19：00	9：00～12：30

無印は通常開館
■ は休館日
■ は名古屋図書館、ライブラリーサービスセンター、法学文献センター休館日
□ の開館時間（平日　9：00～16：00）
○ の開館時間（平日　9：00～17：00　土曜日　9：00～12：30）



発　行　中京大学図書館
〒466-8666
名古屋市昭和区八事本町101-2
TEL（052）-835-7157
http://www.chukyo-u.ac.jp/tosho/
印刷　株式会社　荒川印刷